

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
臨床運動学 A	2	30	PT 3年	前期
担当教員	授業形態		講義室	
加藤 善範	講義		302 教室/機能訓練室	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本動作（寝返り・起き上がり・立ち上がり）が遂行可能となるメカニズムや、その条件などを力学的観点から説明することができる。 ・主な疾患・障害の基本動作分析とその記述を行うことができる。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 姿勢・動作を理解するための運動力学 2. 基本動作の生体力学 3. 寝返り動作基礎 4. 寝返り動作観察と分析 5. 症例検討：寝返り動作分析と考察① 6. 症例検討：寝返り動作分析と考察② 7. 起き上がり動作基礎 8. 起き上がり動作観察と分析 9. 症例検討：起き上がり動作分析と考察① 10. 症例検討：起き上がり動作分析と考察② 11. 立ち上がり動作基礎 12. 立ち上がり動作観察と分析 13. 症例検討：立ち上がり動作分析と考察① 14. 症例検討：立ち上がり動作分析と考察② 15. 疾患・障害別基本動作分析のチェックポイント 			
教科書	<p>動作分析 臨床活用講座（メジカルビュー社） その他、随時資料を配布する。</p>			
成 績 評 価 法	<p>期末試験により評価する。 臨床運動学 A、B の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。</p>			
備 考				

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
臨床運動学 B	2	30	PT 3年	前期
担当教員	授業形態		講義室	
加藤 善範	講義		302 教室/機能訓練室	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行動作が遂行可能となるメカニズムや、その条件などを力学的観点から説明することができる。 ・主な疾患・障害の歩行動作分析とその記述を行うことができる。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歩行の生体力学① 2. 歩行の生体力学② 3. 正常歩行のメカニズムと分析① 4. 正常歩行のメカニズムと分析② 5. 高齢者歩行動作の特徴と分析 6. 各種疾患の歩行動作の特徴と分析① 7. 各種疾患の歩行動作の特徴と分析② 8. 各種疾患の歩行動作の特徴と分析③ 9. 各種疾患の歩行動作の特徴と分析④ 10. 歩行分析と考察① 11. 歩行分析と考察② 12. 症例検討① 13. 症例検討② 14. 症例検討③ 15. 症例検討④ 			
教科書	<p>動作分析 臨床活用講座 (メジカルビュー社)</p> <p>その他、随時資料を配布する。</p>			
成 績 評 価 法	<p>期末試験により評価する。</p> <p>臨床運動学 A、B の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。</p>			
備 考				

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
理学療法評価法実習 C	1	30	PT 3年	前後期
担当教員	授業形態		講義室	
加藤 善範	実習		302 教室/治療室/機能訓練室	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ OSCE（客観的臨床能力試験）を通じて理学療法に必要な主要な評価・治療方法を理解し、実施できる。 ・ 理学療法が必要とされる症例のうち、主要な疾患・障害の特性を理解し、臨床場面を想定して理学療法を実施できる。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. OSCE 概要説明、第 1 回オリエンテーション 2. 模倣① 感覚検査 3. 模倣② ROM 測定 4. 模倣③ MMT 5. 模倣④ 四肢長・周径 6. 模倣⑤ 反射 7. 第 1 回 OSCE 事前準備・指導（疾患、動線、服装等） 8. 第 1 回 OSCE フィードバック 9. 第 2 回オリエンテーション 10. 模倣⑥ BRS 11. 模倣⑦ 医療面接・疼痛 12. 模倣⑧ バランス 13. 模倣⑨ 運動療法 14. 第 2 回 OSCE 事前準備・指導（疾患、動線、服装等） 15. 第 2 回 OSCE フィードバック 			
教科書	随時、資料を配布する。			
成 績 評 価 法	実技試験により評価する。（ 第 1 回 OSCE : 30 点 第 2 回 OSCE : 70 点 ） 理学療法評価法実習 A、B、C の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。			
備 考				

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
日常生活活動実習 B	1	30	PT3 年	前期
担当教員	授業形態		主な講義室	
島本 祐嗣	実習		302 教室/治療室	
目 標	理学療法士に必要となるボディーメカニクスと介助方法を学び、各疾患別の ADL で重要となる実技を体現することが出来る。			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. ADL 介助に関わる支援機器 2. 片麻痺の ADL:グループワーク 3. 片麻痺の ADL:発表 4. 脊髄損傷の ADL:グループワーク 5. 脊髄損傷の ADL:発表 6. 切断・脳性まひ・関節リュウマチの ADL:グループワーク 7. 切断・脳性まひ・関節リュウマチの ADL:発表 8. 神経筋疾患の ADL:グループワーク 9. 神経筋疾患の ADL:発表 10. 高齢者の ADL:グループワーク 11. 高齢者の ADL:発表 12. 高次脳機能障害の ADL:グループワーク 13. 高次脳機能障害の ADL 発表 14. 関節リュウマチの ADL:グループワーク 15. 関節リュウマチの ADL:発表 			
教科書	日常生活活動学テキスト (南江堂)			
成 績 評 価 法	日常生活活動実習 A と B はそれぞれ 1 科目として評価する レポート課題・とグループワーク発表を総合して評価する			
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に使用する資料を適宜配布する。 ・教科書に沿った内容の講義と実習を組み合わせ実施する 			

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
義肢装具学実習	1	30	PT 3年	前期
担当教員	授業形態		主な講義室	
藤井 昭宏	実習		302 教室/機能訓練室	
目 標	<p>実際の義肢や装具を用いながら基本事項を説明することができる。</p> <p>切断者の基本的なリハビリテーション実技を通じて実施することができる。</p> <p>実習を交えながら模擬症例の装具療法を検討・討議することができる。</p>			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、切断者について模擬 2.義肢装具学の復習 3.切断者のリハビリテーション① 4.切断者のリハビリテーション② 5.義足歩行に関する実習① 6.義足歩行に関する実習② 7.義足歩行に関する実習③ 8.義足歩行に関する実習④ 9.装具療法実習(症例①) 10.装具療法実習(症例②) 11.装具療法実習(症例③) 12.装具療法実習(症例④) 13.装具療法実習(症例⑤) 14.臨床実習と装具療法① 15.臨床実習と装具療法② 			
教科書	<p>義肢装具のチェックポイント 第8版 (医学書院)</p> <p>義肢装具テキスト 第2版 (南江堂)</p> <p>その他、必要に応じ資料を配布する</p>			
成 績 評 価 法	<p>期末試験 100%</p>			
備 考				

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
物理療法実習	1	30	PT 3年	後期
担当教員	授業形態		主な講義室	
山本 悟	実習		302 教室	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物理療法の対象となる病態について説明できる。 ・ 病態別に物理療法プログラムを立案できる。 ・ 物理療法の効果についてメカニズムを含め説明できる。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物理療法の基礎知識① 2. 物理療法の基礎知識② 3. 物理療法の基礎知識③ 4. 物理療法の基礎知識④ 5. 関節拘縮に対する物理療法 6. 症例検討① 7. 痙縮に対する物理療法 8. 症例検討② 9. 末梢神経損傷に対する物理療法 10. 症例検討③ 11. 軟部組織損傷に対する物理療法 12. 症例検討④ 13. 痛みに対する物理療法 14. 症例検討⑤ 15. 総合演習 			
教科書	<p>シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト(南江堂) 隨時資料を配布する。</p>			
成 績 評 価 法	<p>筆記試験にて評価を行う。</p>			
備 考				

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
骨関節障害理学療法学 A	2	30	PT3 年	前期
担当教員	授業形態		主な講義室	
川端 悠士	講義		治療室	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な骨関節疾患の病態について説明できる。 ・ 代表的な骨関節疾患に対する評価および治療について説明できる。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大腿骨近位部骨折について(講義) 2. 大腿骨近位部骨折の評価と治療について(講義・グループワーク) 3. 大腿骨近位部骨折の評価と治療について(実技・小テスト) 4. 変形性股関節症について(講義) 5. 変形性股関節症の評価と治療について(講義・グループワーク) 6. 変形性股関節症の評価と治療について(実技・小テスト) 7. 人工股関節全置換術について(講義) 8. 人工股関節全置換術の評価と治療について(講義・グループワーク) 9. 人工股関節全置換術の評価と治療について(実技・小テスト) 10. 変形性膝関節症について(講義) 11. 変形性膝関節症の評価と治療について(講義・グループワーク) 12. 変形性膝関節症の評価と治療について(実技・小テスト) 13. 人工膝関節全置換術について(講義) 14. 人工膝関節全置換術の評価と治療について(講義・グループワーク) 15. 人工膝関節全置換術の評価と治療について(実技・小テスト) 			
教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学 I (中山書店) 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学 II (中山書店) その他、必要に応じ資料を配布する			
成 績 評 価 法	筆記試験にて評価を行う。 骨関節障害理学療法学 A、B の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。			
備 考				

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
骨関節障害理学療法学 B	2	30	PT3 年	後期
担当教員	授業形態		主な講義室	
藤井 昭宏	講義		302 教室／治療室	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨関節障害に関する一般的な治療法を説明できる。 ・ 部位別に骨関節障害の診断・評価・治療を説明できる。 ・ 疾患別の症例検討では、適切な検査・測定を選択し、模倣・実施ができる。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上肢の骨関節障害について(講義) 2. 上肢の骨関節障害に対する診断・評価・治療の選択(実技) 3. 体幹の骨関節障害について(講義) 4. 体幹の骨関節障害に対する診断・評価・治療の選択(実技) 5. 下肢の骨関節障害について(講義) 6. 下肢の骨関節障害に対する診断・評価・治療の選択(実技) 7. 症例検討(変形性膝関節症、保存療法) 8. 症例検討(変形性膝関節症、手術療法) 9. 症例検討(椎体圧迫骨折) 10. 症例検討(椎体圧迫骨折) 11. 症例検討(橈骨遠位端骨折) 12. 症例検討(橈骨遠位端骨折) 13. 症例検討(上腕骨近位部骨折) 14. 症例検討(上腕骨近位部骨折) 15. 症例検討(その他の骨関節障害) 			
教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学 I (中山書店) 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学 II (中山書店) その他、必要に応じ資料を配布する			
成 績 評 価 法	筆記試験にて評価を行う。 骨関節障害理学療法学 A、B の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。			
備 考	適宜、実技を行うので実習着を着用して臨むこと			

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
神経障害理学療法学 A	2	30	PT3 年	前期
担当教員		授業形態	主な講義室	
弓岡 光徳・宍戸 健一郎・川崎 裕史		講義	302 教室／治療室	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種神経障害に関する一般的な治療法を説明できる。 ・ 部位別、疾患別に診断・評価・治療を説明できる。 ・ 症例検討では、適切な検査・測定を選択し、模倣・実施ができる。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. Bobath アプローチ 弓岡 2. Bobath アプローチ 弓岡 3. Bobath アプローチ 弓岡 4. Bobath アプローチ 弓岡 5. Bobath アプローチ 弓岡 6. Bobath アプローチ 弓岡 7. 脳卒中の原因と病態 宍戸 8. 脳卒中の外科的・内科的治療 宍戸 9. 脳卒中の評価 宍戸 10. 脳卒中の運動療法(急性期) 宍戸 11. パーキンソン病 川崎 12. パーキンソン病 川崎 13. 特殊神経疾患 川崎 14. 症例検討 PD 川崎 15. 症例検討 特殊神経疾患 川崎 			
教科書	基本動作の評価と治療アプローチ メジカルビュー社 (弓岡分) 脳卒中理学療法の理論と技術 メジカルビュー社 (宍戸分) その他の講師分は適宜、資料を配布する			
成 績 評 価 法	筆記試験、もしくはレポート課題(講師別に成績判定) 神経障害理学療法学 A、B の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。			
備 考	適宜、実技を行う授業には実習着を着用して臨むこと			

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
神経障害理学療法学 B	2	30	PT3 年	後期
担当教員		授業形態	主な講義室	
渡邊 裕貴・佐々木 貴之・島本 祐嗣		講義	302 教室／治療室	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種神経障害に関する一般的な治療法を説明できる。 ・ 部位別、疾患別に診断・評価・治療を説明できる。 ・ ロボットリハビリテーションの概要を説明できる。 ・ 症例検討では、適切な検査・測定を選択し、模倣・実施ができる。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脊髄損傷の診断と治療 佐々木 2. 脊髄損傷の診断と治療 佐々木 3. 脊髄損傷のトピックス 佐々木 4. 脊髄損傷の理学療法評価 佐々木 5. 脊髄損傷の理学療法評価 佐々木 6. 急性期の理学療法 佐々木 7. 回復期の理学療法 佐々木 8. ロボットリハビリテーション 渡邊 9. ロボットリハビリテーション 渡邊 10. ロボットリハビリテーション 渡邊 11. 症例検討 脳梗塞① 島本 12. 症例検討 脳梗塞② 島本 13. 症例検討 脳出血① 島本 14. 症例検討 脳出血② 島本 15. 症例検討 その他 島本 			
教科書	基本動作の評価と治療アプローチ メジカルビュー社（弓岡分） 脳卒中理学療法の理論と技術 メジカルビュー社（宍戸分） その他の講師分は適宜、資料を配布する			
成 績 評 価 法	筆記試験、もしくはレポート課題（講師別に成績判定） 神経障害理学療法学 A、B の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。			
備 考	適宜、実技を行う授業には実習着を着用して臨むこと			

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
内部障害理学療法学 A	2	30	PT3 年	前期
担当教員		授業形態	主な講義室	
金井和明		講義	302 教室／治療室	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器理学療法について理解する ・循環器疾患を理解する ・循環器のリスク管理を理解する 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器疾患総論 2. 循環器系の解剖と機能 3. 循環器系の症候と検査 4. 心臓リハビリテーション総論 5. 虚血性心疾患のリハビリテーション 6. 心不全のリハビリテーション 7. 開心術後のリハビリテーション 8. 患者教育について(食事指導など) 9. 実技(バイタルチェック) 10. 実技(問診、視診、触診、聴診) 11. 実技(レジスタンストレーニング) 13. 実技(有酸素運動、運動負荷試験) 14. グループワーク(ホームエクササイズの作成、患者指導など) 15. 試験対策 			
教科書	呼吸・心臓リハビリテーション (羊土社) 参考図書： 心臓リハビリテーション必携 (日本心臓リハビリテーション学会) 病気がみえる vol.2 循環器 (MEDIC MEDIA) 患者さんのための心臓リハビリ入門 (中外医学社) 人体の正常構造と機能 II 循環器 (日本医事新報社)			
成 績 評 価 法	筆記試験 内部障害理学療法学 A、B の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。			
備 考	随時実習を行うので実習服を着用のこと			

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
内部障害理学療法学 B	2	30	PT 3 年	前期
担当教員	授業形態		主な講義室	
伊藤 惇	講義		302 教室／治療室	
目 標	<p>呼吸器機能の構造・評価方法を説明できる。</p> <p>病態別に呼吸リハビリテーションのプログラムを立案できる。</p>			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸リハビリテーションの基礎知識(呼吸器の構造・呼吸のメカニズム) 2. 呼吸リハビリテーションの評価①(視診・触診・聴診・打診) 3. 呼吸リハビリテーションの基礎知識(呼吸不全の分類と血液ガス) 4. 呼吸リハビリテーションの評価②(パルスオキシメータ・スパイロメータ) 5. 呼吸リハビリテーションの対象疾患(COPD・間質性肺炎・肺炎・気管支喘息) 6. 呼吸リハビリテーションの評価③(臨床検査所見・異常な呼吸音・肺音) 7. 包括的呼吸リハビリテーション(目的・効果・注意事項) 8. 呼吸リハビリテーションの評価④(理学療法評価) 9. 人工呼吸器管理での呼吸リハビリテーション 10. 排痰法(体位排痰法・ハフティング)・ACBT 11. COPD の呼吸リハビリテーション 12. ロすぼめ呼吸・横隔膜呼吸・呼吸体操・ADLトレーニング 13. 各疾患の呼吸リハビリテーション・気管吸引・在宅酸素療法 14. 徒手呼吸介助手技・胸郭可動域練習 15. 総合演習 			
教科書	<p>ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション 第2版 (羊土社)</p> <p>その他、必要に応じ資料を配布する</p>			
成 績 評 価 法	<p>筆記試験にて評価を行う</p> <p>内部障害理学療法学 A、B の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。</p>			
備 考	<p>実技で聴診器を使用する</p>			

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
スポーツ理学療法学	2	30	PT 3年	前期
担当教員	授業形態		講義室	
加藤 善範	講義		302 教室/治療室	
目 標	<p>障がい者がスポーツに関わる際に、指導者が行うことのできる援助の方法について理解し説明・実施することができる。</p> <p>スポーツ理学療法の対象となる傷害について、部位別にその特徴を理解する。</p>			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者とスポーツ～歴史、意義、理念～ (120 分) 2. 障害者福祉施策と障害者スポーツ (120 分) 3. ボランティア論 (120 分) 4. 障害者スポーツをとりまく環境 <ol style="list-style-type: none"> ①全国障害者スポーツ大会の概要 (60 分) ②日本障害者スポーツ協会・指導員制度について (60 分) 5. 障害の理解とスポーツ <ol style="list-style-type: none"> ①障害の理解 ②各障害の特性を考えた上でのスポーツ実施のために ～障害特性、環境などを考える <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害、視覚障害、聴覚障害 (120 分) ・知的障害 (120 分) ・精神障害 (60 分) 6. 障がい者との交流 (300 分) (実技含む) <p>障がい者スポーツ大会の支援参加 (障がい者陸上)</p> 7. 障害に応じたスポーツの工夫・実施 (180 分) (実技含む) <p>地域に向けて、障がい者スポーツイベントを実施する。その競技特性を考え、障害との関連性について学ぶ。</p> 8. 障がい者スポーツイベント準備 (90 分) 			
教科書	随時資料配布			
成 績 評 価 法	レポートにより評価する。			
備 考				

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期						
骨関節障害理学療法学実習 A	1	30	PT 3年	前期						
担当教員	授業形態		主な講義室							
道祖 悟史・宮野 清孝	実習		治療室							
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ID ストレッチングの基礎について説明できる。基本的なストレッチを学生同士で模倣し、実施できる。(宮野 清孝 6コマ) ・ PNF の基礎について説明できる。基本的なパターンを学生同士で模倣し、実施できる。(道祖 悟史 9コマ) 									
授 業 の 概 要	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. ID ストレッチング概論① 2. ID ストレッチング概論② 3. ID ストレッチングのための基礎知識① 4. ID ストレッチングのための基礎知識② 5. ID ストレッチングの実際 (上肢・体幹) 6. ID ストレッチングの実際 (下肢) </td> <td style="width: 5%; text-align: center; vertical-align: middle;">}</td> <td style="width: 35%; vertical-align: middle;">担当：宮野</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 7. PNF の概要・定義・治療管理 8. 促通要素 9. PNF で用いられる基本手技① 10. PNF で用いられる基本手技② 11. PNF で用いられる基本手技③ 12. PNF で用いられる基本手技④ 13. 特殊テクニック、評価とプログラム立案 14. PNF の臨床応用 15. 疾患別 PNF </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">}</td> <td style="vertical-align: middle;">担当：道祖</td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. ID ストレッチング概論① 2. ID ストレッチング概論② 3. ID ストレッチングのための基礎知識① 4. ID ストレッチングのための基礎知識② 5. ID ストレッチングの実際 (上肢・体幹) 6. ID ストレッチングの実際 (下肢) 	}	担当：宮野	<ol style="list-style-type: none"> 7. PNF の概要・定義・治療管理 8. 促通要素 9. PNF で用いられる基本手技① 10. PNF で用いられる基本手技② 11. PNF で用いられる基本手技③ 12. PNF で用いられる基本手技④ 13. 特殊テクニック、評価とプログラム立案 14. PNF の臨床応用 15. 疾患別 PNF 	}	担当：道祖
<ol style="list-style-type: none"> 1. ID ストレッチング概論① 2. ID ストレッチング概論② 3. ID ストレッチングのための基礎知識① 4. ID ストレッチングのための基礎知識② 5. ID ストレッチングの実際 (上肢・体幹) 6. ID ストレッチングの実際 (下肢) 	}	担当：宮野								
<ol style="list-style-type: none"> 7. PNF の概要・定義・治療管理 8. 促通要素 9. PNF で用いられる基本手技① 10. PNF で用いられる基本手技② 11. PNF で用いられる基本手技③ 12. PNF で用いられる基本手技④ 13. 特殊テクニック、評価とプログラム立案 14. PNF の臨床応用 15. 疾患別 PNF 	}	担当：道祖								
教科書	ID ストレッチング (三輪書店) PNF マニュアル (南江堂)									
成 績 評 価 法	期末試験・レポート課題 骨関節障害理学療法学実習 A、B の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。									
備 考	常に実習ができる服装で授業に臨むこと									

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
骨関節障害理学療法学実習 B	1	30	PT 3年	後期
担当教員	授業形態		主な講義室	
友原 望美	実習		302 教室/治療室	
目 標	<p>本科目は運動器疾患に対する理学療法について講義および実習を展開する。 3年次の臨床実習に必要な各疾患の基礎的知識、理学療法評価から統合と解釈の進め方について整理しながら講義を展開し、運動器疾患に対する治療的介入の組み立て方について実践的に学ぶ。</p>			
授 業 の 概 要	<p>運動器疾患に対する理学療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動器疾患に対する理学療法の流れ、最近のトピックスについて ・ 代表的な運動器疾患の画像診断、後療法について ・ 運動器疾患のクリニカルパスと理学療法 ・ 骨関節疾患の理学療法 ・ 筋疾患、靭帯損傷の理学療法 ・ 脊椎、脊髄疾患の理学療法 ・ 末梢神経障害の理学療法 ・ その他の運動器疾患の理学療法 			
教科書	<p>運動療法に役立つ単純 X 線画像の読み方（メジカルビュー）</p> <p>その他、必要に応じ資料を配付する。</p>			
成 績 評 価 法	<p>期末試験 骨関節障害理学療法学実習 A、B の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。</p>			
備 考				

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期		
神経障害理学療法学実習	2	60	PT3年	前・後期		
担当教員		授業形態	主な講義室			
宍戸・小田・一色・西村		実習	治療室／機能訓練室			
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳卒中に関する一般的な治療法を説明できる。 ・ 脳卒中の診断・評価・治療を説明できる。 ・ 小児疾患・障害に対する運動療法を選択し、その意義を説明できる。 ・ 脊髄損傷患者様に適切な評価を選択し、その模倣と実施ができる。 					
授 業 の 概 要	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳卒中の運動療法 宍戸 2. 脳卒中の運動療法 宍戸 3. その他の運動療法 宍戸 4. 脳卒中の装具療法 宍戸 5. 脳卒中の装具療法 宍戸 6. 脳卒中の物理療法 宍戸 7. 脳卒中の介助方法・家族指導 宍戸 8. 高次脳機能障害 宍戸 9. 高次脳機能障害 宍戸 10. OT・ST との協働 宍戸 11. 脳卒中 急性期の管理 小田 12. 脳卒中 急性期の管理 小田 13. 脳卒中 急性期の評価 小田 14. 脳卒中 急性期の評価 小田 15. 脳卒中 急性期の理学療法 小田 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 16. 脳卒中 急性期の理学療法 小田 17. 小児領域における運動療法 一色 18. 小児領域における運動療法 一色 19. 小児領域における運動療法 一色 20. 小児領域における運動療法 一色 21. 小児領域における運動療法 一色 22. 小児領域における運動療法 一色 23. 脊髄損傷の評価前注意事項 西村 24. 脊髄損傷の評価前注意事項 西村 25. 脊髄損傷の評価前注意事項 西村 26. 脊髄損傷の評価前注意事項 西村 27. 脊髄損傷患者様の評価 西村 28. 脊髄損傷患者様の評価 西村 29. 脊髄損傷患者様の評価 西村 30. 脊髄損傷患者様の評価 西村 </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳卒中の運動療法 宍戸 2. 脳卒中の運動療法 宍戸 3. その他の運動療法 宍戸 4. 脳卒中の装具療法 宍戸 5. 脳卒中の装具療法 宍戸 6. 脳卒中の物理療法 宍戸 7. 脳卒中の介助方法・家族指導 宍戸 8. 高次脳機能障害 宍戸 9. 高次脳機能障害 宍戸 10. OT・ST との協働 宍戸 11. 脳卒中 急性期の管理 小田 12. 脳卒中 急性期の管理 小田 13. 脳卒中 急性期の評価 小田 14. 脳卒中 急性期の評価 小田 15. 脳卒中 急性期の理学療法 小田 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 脳卒中 急性期の理学療法 小田 17. 小児領域における運動療法 一色 18. 小児領域における運動療法 一色 19. 小児領域における運動療法 一色 20. 小児領域における運動療法 一色 21. 小児領域における運動療法 一色 22. 小児領域における運動療法 一色 23. 脊髄損傷の評価前注意事項 西村 24. 脊髄損傷の評価前注意事項 西村 25. 脊髄損傷の評価前注意事項 西村 26. 脊髄損傷の評価前注意事項 西村 27. 脊髄損傷患者様の評価 西村 28. 脊髄損傷患者様の評価 西村 29. 脊髄損傷患者様の評価 西村 30. 脊髄損傷患者様の評価 西村
<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳卒中の運動療法 宍戸 2. 脳卒中の運動療法 宍戸 3. その他の運動療法 宍戸 4. 脳卒中の装具療法 宍戸 5. 脳卒中の装具療法 宍戸 6. 脳卒中の物理療法 宍戸 7. 脳卒中の介助方法・家族指導 宍戸 8. 高次脳機能障害 宍戸 9. 高次脳機能障害 宍戸 10. OT・ST との協働 宍戸 11. 脳卒中 急性期の管理 小田 12. 脳卒中 急性期の管理 小田 13. 脳卒中 急性期の評価 小田 14. 脳卒中 急性期の評価 小田 15. 脳卒中 急性期の理学療法 小田 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 脳卒中 急性期の理学療法 小田 17. 小児領域における運動療法 一色 18. 小児領域における運動療法 一色 19. 小児領域における運動療法 一色 20. 小児領域における運動療法 一色 21. 小児領域における運動療法 一色 22. 小児領域における運動療法 一色 23. 脊髄損傷の評価前注意事項 西村 24. 脊髄損傷の評価前注意事項 西村 25. 脊髄損傷の評価前注意事項 西村 26. 脊髄損傷の評価前注意事項 西村 27. 脊髄損傷患者様の評価 西村 28. 脊髄損傷患者様の評価 西村 29. 脊髄損傷患者様の評価 西村 30. 脊髄損傷患者様の評価 西村 					
教科書	脳卒中理学療法の理論と技術 メジカルビュー社（宍戸分） その他の講師分は適宜、資料を配布する					
成 績 評 価 法	筆記試験、もしくはレポート課題（講師別に成績判定）					
備 考	適宜、実技を行うため、常に実習着を着用して臨むこと					

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
内部障害理学療法学実習 A	1	30	PT3 年	前期
担当教員		授業形態	主な講義室	
島本 祐嗣・丹 信介・曾根 涼子		実習	PC 室／治療室／機能訓練室	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な内部疾患の病態について説明できる。 ・ 代表的な内部疾患に対する評価および治療について説明できる。 ・ 代表的な内部障害に対する治療プログラムが立案できる。 			
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体運動と生体反応の分析(丹・曾根) 2. 身体運動と生体反応の分析(丹・曾根) 3. 運動負荷試験の実施手順と運動強度(丹・曾根) 4. 運動負荷試験の実施手順と運動強度(丹・曾根) 5. 呼気ガス装置の原理と活用(丹・曾根) 6. 運動負荷試験実習(丹・曾根) 7. 運動負荷試験実習(丹・曾根) 8. 結果に対する分析と解釈(丹・曾根) 9. がんについて(疫学・病理学)(島本) 10. がんの治療について(島本) 11. 周術期のがんリハビリテーション(島本) 12. 回復期のがんリハビリテーション(島本) 13. 終末期のがんリハビリテーション(島本) 14. 症例検討(がんリハビリテーション) (島本) 15. 国家試験対策(島本) 			
教科書	理学療法士のための運動処方マニュアル(文光堂):丹・曾根担当分 その他必要に応じ資料を配布する。			
成績評価法	各担当講師による筆記試験とレポート課題により評価を行う。 内部障害理学療法学実習 A、B の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。			
備考	適宜、実技を行うので実習着を着用して臨むこと			

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
内部障害理学療法学実習 B	1	30	PT3 年	後期
担当教員		授業形態	主な講義室	
島本 祐嗣・溝口 桂・福田 圭祐		実習	PC 室／治療室／機能訓練室	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な内部疾患の病態について説明できる。 ・ 代表的な内部疾患に対する評価および治療について説明できる。 ・ 代表的な内部障害に対する治療プログラムが立案できる。 			
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肥満・メタボリックシンドロームに関わる評価、測定(溝口) 2. 糖尿病の運動療法(運動の種類と強度)(溝口) 3. 糖尿病の運動療法(運動指導上の注意点)(溝口) 4. 糖尿病の運動療法(患者教育と療養指導)(溝口) 5. 腎障害の運動療法(運動の種類と強度)(福田) 6. 腎障害の運動療法(注意点、患者教育と指導)(福田) 7. 症例検討(呼吸リハビリテーション)(島本) 8. 症例検討(呼吸リハビリテーション)(島本) 9. 症例検討(心臓リハビリテーション)(島本) 10. 症例検討(心臓リハビリテーション)(島本) 11. 症例検討(糖尿病リハビリテーション)(島本) 12. 国家試験対策①(島本) 13. 国家試験対策②(島本) 14. 国家試験対策③(島本) 15. 国家試験対策④(島本) 			
教科書	必要に応じ資料を配布する。			
成績評価法	各担当講師による筆記試験とレポート課題により評価を行う。 内部障害理学療法学実習 A、B の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。			
備考	適宜、実技を行うので実習着を着用して臨むこと			

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
スポーツ理学療法学実習	1	30	PT 3年	後期
担当教員	授業形態		講義室	
上條 寛司・前原 達哉	実習		302 教室/治療室	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ障害（疾患別および競技別）の特性について理解し、説明できる。 ・スポーツ障害の予防、救急処置、およびコンディショニング（テーピングを含む）について理解し、実施できる。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ障害と理学療法 2. 疾患別スポーツ障害① 3. 疾患別スポーツ障害② 4. 競技別スポーツ障害① 5. 競技別スポーツ障害② 6. スポーツ動作分析① 7. スポーツ動作分析② 8. コンディショニングと外傷予防 9. 救急処置 10. テーピング実技 足関節① 11. テーピング実技 足関節② 12. テーピング実技 膝関節① 13. テーピング実技 膝関節② 14. テーピング実技 肩関節① 15. テーピング実技 肩関節② 			
教科書	<p>アスレティックリハビリテーションガイド（文光堂） 随時、資料を配布する。</p>			
成 績 評価法	<p>期末試験により評価する。</p>			
備 考	<p>講義と実技を行うので、動きやすい服装で参加すること。</p>			

授業科目	単位数	時間数	対象学	学期						
地域理学療法学 A	2	30	PT3年	前後期						
担当教員		授業形態	主な講義室							
渡辺 慎介・川崎 裕史		講義	302教室							
目 標	<p>①地域理学療法に必要な課題分析の方法を学んでICFを活用しながらニーズ把握を行い、サービス内容の立案やプログラムにつなぐことができる。</p> <p>②地域理学療法の活動内容を知り、介護保険領域や介護予防分野での理学療法の意義、目的、内容を説明できる。</p>									
授 業 の 概 要	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・地域理学療法とは 2. 法・制度と地域社会 3. 在宅における理学療法と社会資源 4. 回復期リハビリテーション病棟①概要 5. 回復期リハビリテーション病棟②事例紹介 6. ICF を活用した課題分析の方法 7. 地域包括ケア病棟①概要 8. 地域包括ケア病棟②事例紹介 9. 予防理学療法① 10. 予防理学療法② 11. 対人援助技術① 12. 対人援助技術② </td> <td style="vertical-align: middle; font-size: 3em; padding: 0 10px;">}</td> <td style="vertical-align: middle;">担当：川崎</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 13. 生活機能の視点・生活行為向上マネジメントとは 14. 生活行為向上マネジメントとは(演習)① 15. 生活行為向上マネジメントとは(演習)② </td> <td style="vertical-align: middle; font-size: 3em; padding: 0 10px;">}</td> <td style="vertical-align: middle;">担当：渡辺</td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・地域理学療法とは 2. 法・制度と地域社会 3. 在宅における理学療法と社会資源 4. 回復期リハビリテーション病棟①概要 5. 回復期リハビリテーション病棟②事例紹介 6. ICF を活用した課題分析の方法 7. 地域包括ケア病棟①概要 8. 地域包括ケア病棟②事例紹介 9. 予防理学療法① 10. 予防理学療法② 11. 対人援助技術① 12. 対人援助技術② 	}	担当：川崎	<ol style="list-style-type: none"> 13. 生活機能の視点・生活行為向上マネジメントとは 14. 生活行為向上マネジメントとは(演習)① 15. 生活行為向上マネジメントとは(演習)② 	}	担当：渡辺
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・地域理学療法とは 2. 法・制度と地域社会 3. 在宅における理学療法と社会資源 4. 回復期リハビリテーション病棟①概要 5. 回復期リハビリテーション病棟②事例紹介 6. ICF を活用した課題分析の方法 7. 地域包括ケア病棟①概要 8. 地域包括ケア病棟②事例紹介 9. 予防理学療法① 10. 予防理学療法② 11. 対人援助技術① 12. 対人援助技術② 	}	担当：川崎								
<ol style="list-style-type: none"> 13. 生活機能の視点・生活行為向上マネジメントとは 14. 生活行為向上マネジメントとは(演習)① 15. 生活行為向上マネジメントとは(演習)② 	}	担当：渡辺								
教科書	地域理学療法学(羊土社)、その他必要に応じ資料を配布する									
成 績 評 価 法	担当者ごとに成績を評価する。 地域理学療法学 A, B の出席・成績はそれぞれ1科目として個別に取り扱う。									
備 考										

授業科目	単位数	時間数	対象学	学期		
地域理学療法学 B	2	30	PT3年	前後期		
担当教員		授業形態	主な講義室			
杉山 英樹・綿谷 昌明・三戸 洋・松原 早苗		講義	302教室			
目 標	<p>①地域理学療法に必要な課題分析の方法を学んでICFを活用しながらニーズ把握を行い、サービス内容の立案やプログラムにつなぐことができる。</p> <p>②地域理学療法の活動内容を知り、介護保険領域や介護予防分野での理学療法の意義、目的、内容を説明できる。</p>					
授 業 の 概 要	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 16.訪問リハビリテーション①概要 17.訪問リハビリテーション②事例紹介 18.訪問リハビリテーション③事例検討 19.訪問リハビリテーション④ケアプラン作成 20.通所リハビリテーション①概要 21.通所リハビリテーション②事例紹介 22.通所リハビリテーション③事例検討 23.通所リハビリテーション④ケアプラン作成 24.介護予防事業・転倒予防①概要 25.介護予防事業・転倒予防②事業紹介 26.介護予防事業・転倒予防③地域包括支援センター 27.介護予防事業・転倒予防④運動の実際 28.事例検討 29.事例検討 30.事例検討・まとめ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: middle; text-align: center;"> } 担当:杉山 } 担当:三戸 } 担当:綿谷 } 担当:松原 </td> </tr> </table>				16.訪問リハビリテーション①概要 17.訪問リハビリテーション②事例紹介 18.訪問リハビリテーション③事例検討 19.訪問リハビリテーション④ケアプラン作成 20.通所リハビリテーション①概要 21.通所リハビリテーション②事例紹介 22.通所リハビリテーション③事例検討 23.通所リハビリテーション④ケアプラン作成 24.介護予防事業・転倒予防①概要 25.介護予防事業・転倒予防②事業紹介 26.介護予防事業・転倒予防③地域包括支援センター 27.介護予防事業・転倒予防④運動の実際 28.事例検討 29.事例検討 30.事例検討・まとめ	} 担当:杉山 } 担当:三戸 } 担当:綿谷 } 担当:松原
16.訪問リハビリテーション①概要 17.訪問リハビリテーション②事例紹介 18.訪問リハビリテーション③事例検討 19.訪問リハビリテーション④ケアプラン作成 20.通所リハビリテーション①概要 21.通所リハビリテーション②事例紹介 22.通所リハビリテーション③事例検討 23.通所リハビリテーション④ケアプラン作成 24.介護予防事業・転倒予防①概要 25.介護予防事業・転倒予防②事業紹介 26.介護予防事業・転倒予防③地域包括支援センター 27.介護予防事業・転倒予防④運動の実際 28.事例検討 29.事例検討 30.事例検討・まとめ	} 担当:杉山 } 担当:三戸 } 担当:綿谷 } 担当:松原					
教科書	地域理学療法学(羊土社)、その他必要に応じ資料を配布する					
成 績 評 価 法	担当者ごとに成績を評価する。 地域理学療法学 A, B の出席・成績はそれぞれ1科目として個別に取り扱う。					
備 考						

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
卒業研究 I A	2	30	PT 3年	前期
担当教員	授業形態		講義室	
川崎 裕史	講義		302 教室 / パソコン室	
目 標	<p>エビデンスの評価に必要な基本的知識に関する設問に答えることができる。 グループでの卒業研究にとりかかるまでの準備状態をつくり、倫理審査書類を作成することができる。</p>			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒論発表聴講 2. 卒論発表聴講 3. 導入、研究のプロセス(流れ)、基本的な研究用語の理解 4. 評価指標の選択 5. 論文の構成 論文の読み方 6. バイアスと研究デザイン 7. 基本的な研究デザインと統計モデル 8. 基本統計処理(演習) 9. グループワーク (リサーチクエスションの生成) 10. グループワーク (リサーチクエスションの生成) 11. グループワーク (文献収集) 12. グループワーク (文献収集) 13. グループワーク (研究計画) 14. 倫理的な考え方、倫理審査書類の作成方法 15. 倫理的な考え方、倫理審査書類の作成方法 			
教科書	随時資料を配布			
成 績 評 価 法	<p>成績は、課題発表および筆記試験によって評価する。 卒業研究 I A、I B、II の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。</p>			
備 考				

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
卒業研究 I B	2	30	PT 3年	後期
担当教員	授業形態		講義室	
島本 祐嗣	講義		302 教室 / パソコン室	
目 標	<p>他者の論文を批判的な視点でいねいに読み、要約して発表することができる。 他者の論文から学んだことを自分たちの卒業論文に応用することができる。 基本的な統計処理を行うことができる。</p>			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献抄読の方法 2. 文献収集 3. グループワーク(抄読用論文の選択) 4. グループワーク(抄読用論文の精読) 5. グループワーク(抄読用論文の精読) 6. グループワーク(抄読発表原稿の作成) 7. グループ発表 8. グループ発表 9. グループ発表 10. 統計処理 11. 統計処理 12. 統計処理 13. 統計処理 14. 研究関連の知識の整理(国家試験問題) 15. 研究関連の知識の整理(国家試験問題) 			
教科書	随時資料を配布			
成 績 評 価 法	成績は、課題発表および筆記試験によって評価する。 卒業研究 I A、 I B、 II の出席・成績はそれぞれ 1 科目として個別に取り扱う。			
備 考				

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
卒業研究Ⅱ	3	90	PT 3年	前・後期
担当教員	授業形態		講義室	
指導教員	演習		その都度指示	
目 標	グループごとに研究テーマを決め研究の基本的プロセスを実践することができる。 卒論発表会においてその成果を発表することができる。			
授 業 の 概 要	<p>指導教員の指導を受けながら以下の研究プロセスを実践する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.文献収集・整理 2.研究テーマの選択 3.研究計画 4.倫理審査書類を作成し、審査において承認を得る 5.データ収集 6.データ解析 7.考察 8.発表スライドの作成・発表 9.論文作成 <p>以上の過程で構想発表会、中間発表会、卒業研究発表会を設けプレゼンテーションを実践する。</p>			
教科書	なし			
成 績 評 価 法	卒業研究発表会と提出された論文により評価する。 卒業研究ⅠA、ⅠB、Ⅱの出席・成績はそれぞれ1科目として個別に取り扱う。			
備 考	指導教員からの指示を待つのではなく、学生が主体的に研究に取り組むこと。			

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
臨床実習Ⅱ	3	135	PT 3年	後期
担当教員	授業形態		主な講義室	
PT 教員および臨床実習指導者	実習		なし	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 各疾患において用いられる評価を経験し、評価技術を身に付けるとともに各評価の意義を学ぶこと 臨床的・クラークシップの「見学・模倣・実施」の3つの段階を順に踏みながら、診療参加を積極的に経験すること 評価実習のチェックリスト上にある「理学療法に関する情報収集・検査測定項目」について、可能な限りその多くを模倣レベル以上習得すること 実習後は実習中に作成したポートフォリオを基に凝縮ポートフォリオを作成し、臨床的思考を口頭試問にて適切に報告することができること 			
授 業 の 概 要	<p>各臨床実習施設において臨床参加をしながら、以下の項目を経験する</p> <p>I 職業人としての習慣・態度・業務理解(情意領域)</p> <p>II 基本的な理学療法の実施過程</p> <ol style="list-style-type: none"> 対象者に即した評価の過程(精神・運動領域) 対象者に即した理学療法の治療・対応計画の立案(認知領域) ポートフォリオ内で整理し記載 対象者に即した理学療法の治療と経過(精神・運動領域) <p>III 理学療法士観の育成(情意領域)</p>			
教科書	3年次臨床実習Ⅱガイドブックを実習前に配布予定			
成 績 評 価 法	実習後に単位認定試験(筆記、実技、口頭試問)を行い評価する。			
備 考	提出課題:臨床実習チェックリスト、臨床実習Ⅱポートフォリオ			

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
世界の理学療法セミナー	1	15	PT 3年	前期
担当教員	授業形態		主な講義室	
藤井 昭宏	講義		302 教室	
目 標	外国人講師による特別講演会への参加や、連携校との交流を通し、世界の理学療法の動向について学び、学んだことを列挙し、感想や考えを述べることができる。			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際交流でのプレゼンテーション 2. 外国人講師によるレクチャー 3. 外国人講師による特別講演会 4. 国際交流企画・運営 			
教科書	特になし、適宜資料を配布する。			
成 績 評 価 法	レポート課題			
備 考				

授業科目	単位数	時間数	対象学年	学期
臨床実習セミナーⅡ	2	30	PT 3年	後期
担当教員	授業形態		主な講義室	
山本 悟	講義・実習		203/204 教室、基礎医学実習室	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療におけるリスクマネジメント事例について、現状を把握し行動目標を設定できる。 ・一次救命処置が適切に実施できる。 ・病棟で生じやすい医療事故を列挙し、対策を述べることができる。 ・喀痰吸引が適切に実施できる。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. リスクマネジメント概論① 2. リスクマネジメント概論② 3. リスクマネジメント概論③ 4. リスクマネジメント概論④ 5. 救命救急法① 6. 救命救急法② 7. 救命救急法③ 8. 救命救急法④ 9. 病棟におけるリスクマネジメントの実際① 10. 病棟におけるリスクマネジメントの実際② 11. 病棟におけるリスクマネジメントの実際③ 12. 病棟におけるリスクマネジメントの実際④ 13. 喀痰吸引法① 14. 喀痰吸引法② 15. 喀痰吸引法③ 16. 喀痰吸引法④ 			
教科書	必要に応じ資料を配布する。			
成 績 評 価 法	実習状況などより総合的に評価する。			
備 考				

